

# 日本学習社会学会 第22回大会プログラム

## ◆ 大会期間と会場

日時 2025年9月6日(土)・7日(日)

会場 早稲田大学 早稲田キャンパス 14号館(3～5頁参照)

連絡先 E-mail: [learningsociety22thtaikai@list.waseda.jp](mailto:learningsociety22thtaikai@list.waseda.jp)  
(大会実行委員会事務局 坂内夏子)

## ◆ 日程 (一部変更になる場合もあります)

### 9月6日(土)

時間	内容	掲載頁	会場
11:00～12:30	全国理事会		14号館 505
12:00～	大会受付		14号館 4階ロビー (エスカレーター側)
	会員控室		14号館 403
13:00～14:35	自由研究発表Ⅰ	6	14号館 404
	自由研究発表Ⅱ	6	14号館 405
	自由研究発表Ⅲ	7	14号館 407
	自由研究発表Ⅳ	7	14号館 408
14:45～15:45	総会		14号館 201
16:00～18:00	公開シンポジウム「スクール・コミュニティにおける学びと協働 ―学習者のエージェンシーと地域社会の可能性―」	8	14号館 201

### 9月7日(日)

9:15～9:45	課題研究Ⅰ 打ち合わせ		14号館 404
	課題研究Ⅱ 打ち合わせ		14号館 405
9:30～	大会受付		14号館 4階ロビー (エスカレーター側)
	会員控室		14号館 403
10:00～12:00	課題研究Ⅰ 「リカレント教育におけるリスキリングの展望と課題」	9	14号館 401
	課題研究Ⅱ 「生涯学習における高齢者教育 ―韓国・中国・カナダの事例を通して―」	10	14号館 402
13:00～15:00	自由研究発表Ⅴ	11	14号館 404
	自由研究発表Ⅵ	11	14号館 405
	自由研究発表Ⅶ	12	14号館 407
	自由研究発表Ⅷ	12	14号館 408

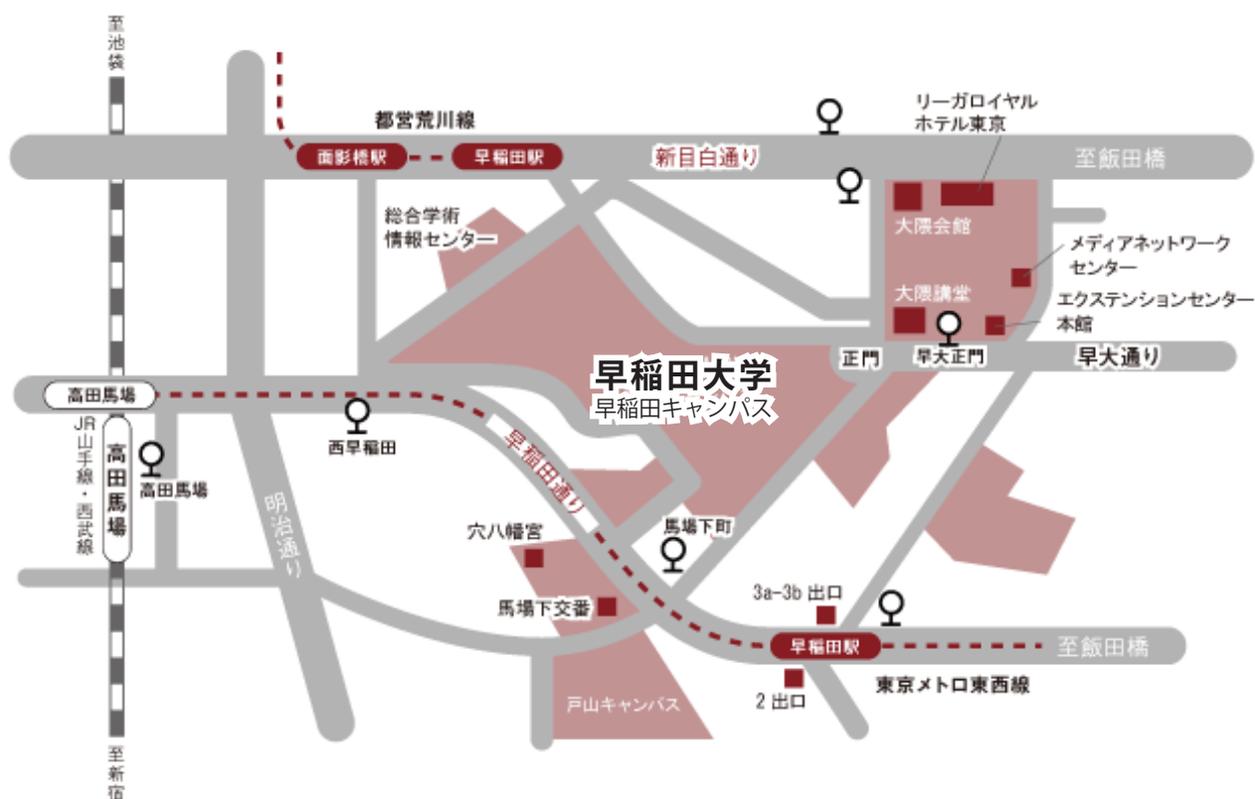
## ◆自由研究発表要領

- 1 発表時間について、個人研究は発表 20 分、質疑応答 5 分です。共同研究（口頭発表者が 2 名以上の場合）は発表 40 分、質疑応答 10 分です。
- 2 発表用資料は 40 部ご用意下さい。会場校での資料のお預かり・印刷はできません。
- 3 発表用機材として、各教室備付のパソコン、プロジェクタ、スクリーンが利用できます。発表申込時に機器使用を申し込まれた方は、データを USB メモリに入れてお持ちください。  
会場設置のパソコンではデータの編集作業はできません。
- 4 発表者がやむを得ず欠席する場合は、前日までに下記に必ず連絡してください。  
E-mail : learningsociety22  
発表者が欠席の場合は、発表時間の繰り上げはせず、質疑・休憩の時間とします。
- 5 発表者は、各分科会の開始 10 分前までにご来場の上、司会者に出席をお知らせください。  
配布資料がある場合、各会場の所定の位置に資料を置いてください。

## ◆連絡事項

- 1 受付は 4 階のエスカレーター付近に設置します。
- 2 大会参加費は当日会場受付にてお支払いください。一般会員 2000 円（正会員・臨時会員）、院生・学生会員 1000 円（院生・学生）です。公開シンポジウムのみ参加は無料です。
- 3 昼食について、大学構内や周辺に飲食店がありますが、土日休業のところが多いです。駅周辺の飲食店やコンビニをご利用ください。会場でのお弁当販売はありません。
- 4 情報交換会は開催しません。
- 5 Wifi 関係 ゲストアカウトを用意します。
- 6 理事会は 9 月 6 日 11 時より、14 号館 505 で行います。昼食は準備致します。
- 7 9 月 6 日の総会・シンポジウムは、14 号館 201 で行います。
- 8 両日とも会員控室として、14 号館 403 をご利用ください。

## ◆早稲田大学（早稲田キャンパス）へのアクセス



## アクセス

J R 山手線 高田馬場駅から徒歩 20 分

西武鉄道 西武新宿線 高田馬場駅から徒歩 20 分

東京メトロ 東西線 早稲田駅から徒歩 5 分

東京メトロ 副都心線 西早稲田駅から徒歩 17 分

都バス 学 02 (学バス) 高田馬場駅発「早大正門行」乗車「西早稲田」バス停から徒歩 2 分

東京さくらトラム (都電 荒川線) 早稲田駅から徒歩 5 分

# ◆早稲田大学内建物配置図



◆ 14号館案内図

2階



自由研  
Ⅲ・Ⅶ

自由研  
Ⅳ・Ⅷ

4階

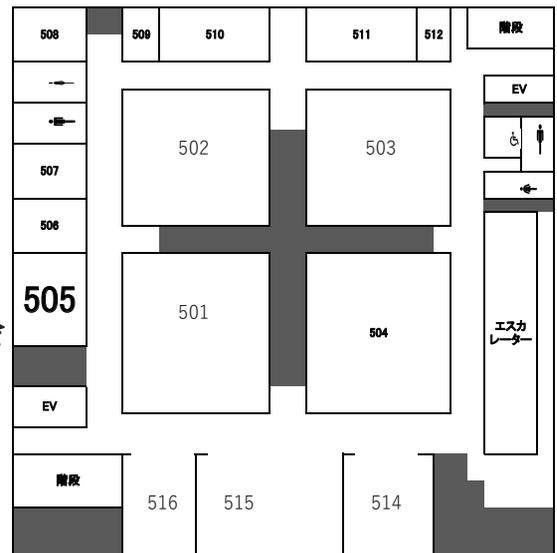
自由研  
Ⅱ・Ⅵ  
課題Ⅱ 打合せ

自由研  
Ⅰ・Ⅴ  
課題Ⅰ 打合せ



5階

全国  
理事会



## ◆ 9月6日(土)

### 自由研究発表

13:00 ~ 14:35

14号館 4F

発表時間 個人発表：20分・質疑5分、共同発表：40分・質疑10分  
共同発表は、○印が口頭発表者

#### 自由研究発表Ⅰ（14号館404）

司会 入澤 充（国士舘大学）

1 13:00 ~ 13:50

保護者・地域・学校との連携に関する一考察  
—保護者を対象とした意識調査結果から—

○柴田彩千子（東京学芸大学）  
○小平温太（東京学芸大学大学院）  
○山下瑠里子（東京学芸大学大学院）

2 13:50 ~ 14:15

コミュニティ・スクールを活用した地域づくりに関する一研究  
—統廃合を契機に導入されたCSを事例として—

市野亮太（日本大学）

14:15 ~ 14:35 共同討議

#### 自由研究発表Ⅱ（14号館405）

司会 赤尾勝己（関西大学）

1 13:00 ~ 13:50

日系人児童のグローバルリーダー育成に向けた海外オンライン協働学習  
プラットフォームの可能性 —文化的アイデンティティと主体性の育成—

○津村公博（浜松学院大学）  
白鳥絢也（常葉大学）  
○田島喜代美（常葉大学非常勤）

2 13:50 ~ 14:15

教育をめぐる境界線の問い直し  
—多国籍・多言語化する地域と高校の協働に着目して—

今井貴代子（大阪大学）

14:15 ~ 14:35 共同討議

## 自由研究発表Ⅲ（14号館407）

---

司会 島川 崇（神奈川大学）

1 13:00～13:50

外国につながる子どもを対象とした学習支援グループにおける支援者の意識  
—語り手と聴き手のふり返しをもとに—

○宇津木奈美子（獨協大学）

○高梨宏子（東海大学）

2 13:50～14:15

バンクーバー隣組の活動  
—日系人の変化に伴う支援の変容—

田中真奈美（東京未来大学）

14:15～14:35 共同討議

## 自由研究発表Ⅳ（14号館408）

---

司会 小西秀樹（関西大学）

1 13:00～13:50

地域学校協働活動に関わるボランティアのストレングスの重要性  
—青森県青森市の学校支援ボランティア養成講座の事例から—

○西村彩恵（柴田学園大学）

○西村吉弘（青森公立大学）

2 13:50～14:15

地域における多世代交流の取り組み

八木 一龍（世田谷区立小学校講師・  
神奈川健康生きがいアドバイザー協議会）

14:15～14:35 共同討議

総 会

14:45 ~ 15:45

14号館 201

公開シンポジウム

16:00 ~ 18:00

14号館 201

## スクール・コミュニティにおける学びと協働

### —学習者のエージェンシーと地域社会の可能性—

趣旨：OECDの「2030年に向けた学習の枠組み」で注目された概念に「エージェンシー」がある。学習者のエージェンシーが発揮される要件の一つは学習者個人のリテラシーなど学習の基盤となる力であるが、もう一つは学習環境である。本シンポジウムでは、エージェンシー概念に示唆を得つつ学習環境としてのスクール・コミュニティを捉え直し、そこでの学びと協働について考察する。

コミュニティ・スクールの制度化から20年が過ぎ、学校は地域の人々との協働の場から、社会的関係を創り出すプラットフォームとなり、新たな「スクール・コミュニティ」が形成されてきた。そこで、まず佐藤会員が、エコロジカル・アプローチによるエージェンシー概念に基づき、学習環境としてのスクール・コミュニティについて考えるための論点を提示する。次に、米川氏が三鷹市におけるスクール・コミュニティの成果と課題について、保護者、PTA役員、三鷹スクール・コミュニティ推進会議委員としての経験に基づき報告する。三鷹市ではコミュニティ・スクールの経験を踏まえ、学校を核としたコミュニティづくりとして「スクール・コミュニティ」の取り組みが進められている。一方、台東区では、学習者のエージェンシーの育成を目的とし、独自に「TAITOフューチャースクール」として研究開発している。既存のコミュニティ・スクールとは異なる学校づくりとそれに基づくスクール・コミュニティの創造をめざす事例として取り上げ、「TAITOフューチャースクール」検討委員会委員や研究モデル校の校長として当該事業に取り組んでいる田中氏が、その設置経緯や現状について報告する。最後に、二つの地域の社会的特徴に着目しながらスクール・コミュニティの今後とそこでの学びや協働の在り方について展望してみたい。

報告：

佐藤千津会員（国際基督教大学）

「スクール・コミュニティをめぐる論点と課題 —エージェンシーの観点から—」

米川 充氏（にしみたか学園コミュニティ・スクール委員会委員、  
三鷹市公立学校PTA連合会前会長）

「コミュニティ・スクールからスクール・コミュニティへ —成果と課題—」

田中康雄氏（東京都台東区立上野小学校校長）

「TAITOフューチャースクールの取り組み —経緯と現状—」

司会：玉井康之会員（北海道教育大学）

◆ 9月7日(日)

課題研究 I

10:00 ~ 12:00

14号館 401

テーマI (研究推進委員会企画)

## リカレント教育におけるリスキリングの展望と課題

趣旨：令和5年に閣議決定された第4期教育振興基本計画は、「予測困難な時代」という時代観を背景に、2040年以降の社会を見据えた教育の方向性を示すものであった。その主旨は、持続可能な社会の創り手を育成し、日本社会に根ざしたウェルビーイングの向上を図ることにあった。

いわゆる VUCA (Volatility：変動性、Uncertainty：不確実性、Complexity：複雑性、Ambiguity：曖昧性) と呼ばれる時代状況の中で、少子高齢化や労働人口の減少、環境変動、AI などの ICT 技術の進展などから多様な社会状況の変化が見られる。これらに対応するために、これまでにない社会課題の解決が求められ、持続可能な社会の維持・発展、活力ある社会の実現に向け、人材育成と「人への投資」の重要性が強調されるものであった。

このような流れの中で、第12期中教審生涯学習分科会では「生涯学び続ける社会の実現」と「すべての人のウェルビーイング」を目指し、リカレント教育が議論の焦点の一つとされた。新たな価値を創造する人的成長投資、専門人材のスキルを再構築するリカレント教育プログラムの開発や、キャリア形成支援、スキルの可視化、人材流動性促進などが掲げられるものであった。

「ウェルビーイング」を、「精神的な豊かさから幸福や生きがい捉える」とする政策枠組みにおいて、「誰もが生涯を通じて意欲的に楽しく学び続ける社会」の実現が目指される。このような社会的・政策的状況を踏まえ、本課題研究では、リカレント教育におけるリスキリングの取り組みについて、その展望と課題を明らかにすることを目的とし検討したい。

報告：

出相泰裕会員 (大阪教育大学)

「高等教育段階におけるリカレント教育の可能性と課題」

池原真佐子氏 (株式会社 Mentor For 代表)

「人的資本経営時代におけるリスキリングとウェルビーイング」

企業現場からみる「社外メンター」のニーズの高まりと具体事例」

須賀忠芳会員 (東洋大学)

「リスキリングにつらなる認識形成の射程 —観光歴史教育の観点から—」

司会：川前あゆみ会員 (北海道教育大学・研究推進委員)

## テーマⅡ（国際交流委員会企画）

## 生涯学習における高齢者教育

## —韓国・中国・カナダの事例を通して—

趣旨：今日、少子高齢化の進展に伴い、生涯学習における高齢者教育の重要性はますます高まっている。しかし、高齢者の学習活動は依然として社会的・教育的支援の周縁に置かれがちであり、彼／彼女らに対する学習支援には地域や文化的背景によって大きな差と課題が存在している。特に、従来は高齢者を「支援される存在」あるいは「社会的弱者」として捉える傾向が強かったが、近年では、多くの高齢者は積極的に社会参加を果たし、「学びの主体」として再評価する視点が重要視されるようになってきている。

そこで本研究課題では、韓国、中国、カナダという異なる文化・社会的背景をもつ3カ国の事例を通して、高齢者が自ら主体的に学び、地域社会への貢献を目指す生涯学習における高齢者教育のあり方を検討する。特に、世界保健機関（World Health Organization: WHO）が提唱する「ヘルシー・エイジング」の理念を理論的枠組みとして位置づけ、高齢者が直面する社会的孤立、無力感、喪失感などの課題に対して、各国がどのように高齢者の学習意欲や社会参加を支援しているかを明らかにする。これにより、多文化・多世代が共生する社会の実現に向けて新たな知見を提供し、高齢者の生涯学習支援の体制構築に寄与することを目指す。

## 報告：

## ①呉世蓮会員（関東学院大学・国際交流委員長）

「韓国のソビマルシニアセンターにおける高齢者生涯学習の課題と可能性  
—多文化教育の視点からみる地域実践の事例—」

## ②趙天歌会員（関東学院大学・非常勤）

「中国における高齢者の社会参加と学びをつなぐ世代間交流  
—社区における実践と課題—」

## ③成島美弥先生（ご招待）（ブロック大学）

「カナダの生涯学習社会における高齢者教育の現状と課題  
—オンタリオ州の事例の考察から—」

司会：平山雄大会員（お茶の水女子大学・国際交流委員）

## 自由研究発表

13:00 ~ 15:00

14号館 4F

発表時間 個人発表：20分・質疑5分、共同発表：40分・質疑10分  
共同発表は、○印が口頭発表者

### 自由研究発表V（14号館404）

司会 坪内 一（千代田区立千代田図書館）

1 13:00 ~ 13:25

社会環境（資源）開発としてのまちづくりにおける幼児教育施設の位置づけ  
—兵庫県加古川市かわのまちほいくえんの事例分析—

田中 謙（日本大学）

2 13:25 ~ 13:50

小規模自治体における子育て・教育の一体的取り組みにみる  
地域教育経営の自律的論理

加藤裕明（札幌大谷大学）

3 13:50 ~ 14:15

第2次以降の安倍内閣の初等中等教育政策 —教育無償化と若者重視戦略—  
岩本利裕（関西大学大学院）

14:15 ~ 14:40 共同討議

### 自由研究発表VI（14号館405）

司会 栗原 幸正（高崎健康福祉大学）

1 13:00 ~ 13:25

高等学校のキャリア教育における現状と改善の方向性

竹本弥生（横浜薬科大学）

2 13:25 ~ 13:50

教育格差と学力 —「地方学力テスト」による調査研究の歴史—  
北野秋男（日本大学）

3 13:50 ~ 14:15

高等学校プランディングにおける大学の役割に関する歴史的研究  
佐久間邦友（日本大学）

4 14:15 ~ 14:40

教職課程におけるICT活用指導力の育成の現状と課題

三好哲郎（横浜薬科大学）

14:40 ~ 15:00 共同討議

## 自由研究発表Ⅶ（14号館407）

司会 貝ノ瀬 滋（三鷹教育子育て研究所・兵庫教育大学）

- 1 13:00～13:25  
非認知能力と自己肯定感の関係  
末吉 雄二（日本工業大学）
  - 2 13:25～13:50  
ポジティブ心理学を用いた薬学教育の取り組み —性格の強みを用いて—  
吉田 林（横浜薬科大学）
  - 3 13:50～14:15  
STEAM教育の課題と社会的支援  
桜庭 望（八洲学園大学）
- 14:15～14:40 共同討議

## 自由研究発表Ⅷ（14号館408）

司会 呉世蓮（関東学院大学）

- 1 13:00～13:25  
アマチュア科学研究家の支援はどうあるべきか  
中野英之（桐蔭横浜大学・早稲田大学教師教育研究所）
  - 2 13:25～13:50  
「総合的な探究の時間」における文理融合プログラムに向けた実態調査  
—栃木県を例として—  
○若園雄志郎（宇都宮大学）  
渋江かさね（静岡大学）
  - 3 13:50～14:15  
生徒指導の専門分化はなぜ抑制されたのか  
—教員業務の包括性をめぐる史的考察—  
平井貴美代（常葉大学）
- 14:15～14:40 共同討議

日本学習社会育学会 第22回研究大会プログラム

2025年8月7日発行

日本学習社会学会第22回大会実行委員会

〒169-8050 東京都新宿区西早稲田 1-6-1 早稲田大学教育学部 坂内夏子研究室